

三重大学「学生海外チャレンジ応援事業」報告書

計画タイトル	採択コース
現地のストリートチルドレンと交流し、支援活動を行う	Bコース

学生情報	
氏名	川原優香
所属学部・研究科	生物資源学部・生物圏生命化学科
学年(出発時)	2年

渡航先情報	
渡航先	フィリピン(マニラ・スアル)
渡航先滞在期間	2023年9月5日 ~ 2023年9月15日
訪問先機関等	CFF「子どもの家」
訪問先機関での身分	ワークキャンパー

渡航概要と内容
養護保護施設の「子どもの家」の建設・整備・修繕を行い、子どもたちがより幸せな人生を送れるように支援する。フィリピン・ワークキャンプに参加する日本人や現地の人たちと、フィリピンの社会問題の背景を学び、自分の将来につなげる。現地の子どもたちと、貧困地域やゴミ集積場で生活する人々、戦争記念碑等を訪問し現地のことを学ぶ。戦争と平和、自分自身、社会などについてのセミナーを受け、より深くフィリピンを知る。村の子どもたちと遊び、村の人々と交流を行う。私が参加した海外ボランティア団体は、日本人キャンパー17名、ローカルキャンパー3名で構成されていた。このメンバーで10日間、「子どもの家」で現地の人と共同生活を行った。 1日目はマニラのホテルに滞在し、近くのショッピングモールで夕食を食べた。帰りはフィリピンのトライシクルに乗った。2日目は「子どもの家」に、ホテルから約6時間かけて向かった。フィリピンの田舎は道が整備されていないところが多くあり、通行が大変だった。向かう途中で、戦争慰霊碑、貧困集落に立ち寄り、日本がフィリピンに行った残虐行為を知った。日本では、このことがあまり知られていないことが、フィリピン人にとって、とても悔しいと伝えられた。3日目から9日目は5:30起床、6:30からモーニングディボーション(聖書を読む時間)があった。フィリピン人は過半数がキリスト教なので、これは現地の考え方を知る良い機会となった。朝食を済まして9:00~12:00、13:30~15:00、15:30~17:30の6時間半ほど昼食とミリエンダ(おやつ休憩)を挟み、ワークを行った。夕食後、20:00からはセミナーを行った。セミナーでは、「What do you believe?」、「What do you want to believe?」、「What have you built through the camp?」等の質問を投げかけられ、自分の考えを見つめ直す時間となった。仲間と意見交換し、自分と異なる考え方がたくさんあり、とても良い刺激を受けた。セミナーが終わると、コーヒータイムがあり、自由に仲間たちと交流を行った。最終日には「子どもの家」を離れ、ミニスタディツアーに参加した。そこではスラム街で暮らしている人々と話す機会があった。また、子どもたちがたくさんおり、バスケットボールや鬼ごっこを楽しんだ。
渡航により達成できたこと
「子どもの家」の道路、石積み、柵の整備を完了させた。 クレーン車がないためすべて手作業で行い、道路づくりでは、作業場と設置場所が異なっており、急な斜面を仲間とバケツリレーをしてセメントを運んだ。交流する子どもたちのほとんどが流行性角膜炎になってしまい、最初と最後しか会うことができなかった。そのため、交流ができなくなった子供たちに何ができるかを考え、手紙のやり取り、ビデオ動画、千羽鶴等をプレゼントして交流を行った。毎日夜に開催されたセミナーでは、自分を見つめ直し、考えを整理することが出来、将来自分は何をしたいかを本気で考えることができた。

渡航を通じて感じたこと・学んだこと	
フィリピンでは、タガログ語が話されていたが、それを翻訳者の方が英語に直し、スタッフが日本語に直すという場面が多かった。 また、現地のキャンパーとは、英語で交流をしていた。 渡航を通じて、事前に英語はしっかりと勉強しておくべきだったなと痛感した。 また、日本の環境や治安の良さを改めて肌で感じた。戦争慰霊碑の見学や戦争を体験した現地の方の話を聞いて感じたこととして、日本は自国がフィリピンに行った残虐なことを公にしていないのではないかと感じた。 フィリピンに渡航して狂犬病で亡くなる日本人が多くいると知っていたので、野犬や野良猫には注意が必要であったが、沢山道にいるのでとても怖く感じた。 また、フィリピンは信号がほとんどないが交通量が多いので、至る所から車が割り込んでくるため、乗車中は落ち着かなかった。	
今回の経験を今後の学修及びキャリアパスの中でどのように活かしていくか	
今回の渡航を通して、自分の知っている単語や簡単な構文だけでも外国語でコミュニケーションをとることができると思った。英語で自分の考えをうまく伝えることができなかった悔しさを忘れずに、英語学習に励んでいきたいと思う。また、自分を成長させることのできる場や、コミュニケーションの輪には積極的に参加し、自分を高めていきたい。海外ボランティア団体に参加していた仲間の多くは都心部の出身で私よりも年齢が高く、多くのことを経験してきているように思った。今回の活動は終了したが、これからも、仲間と交流をして自分の糧になることを多く学び、これからの活かしていきたい。	
この事業での渡航を考えている学生へのアドバイス	
海外に行ってみたいと少しでも感じるなら、渡航するべきです。 時間がたくさんある大学生のうちに、色々な文化に触れ、自分と異なった考え方の人達とコミュニケーションをとることで、新しい視野を得られるきっかけとなります。 新しいコミュニティに足を踏み入れることは、勇気がいることではありますが、なんとかなるので、チャレンジするという精神が大事だと思います。	
計画全体にかかった費用(自己負担分も含めて、日本円で記載すること。)	
渡航費(往復)	102,070円
海外旅行保険	12,070円
学費(教科書代や大学等プログラム授業料等)	143,000円
宿泊費	0円
光熱費	0円
食費	0円
その他	15,000円
合計	272,140円